

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2071700237		
法人名	社会医療法人 恵仁会		
事業所名	シルバーハウス塚原		
所在地	長野県佐久市塚原2228番地3		
自己評価作成日	平成25年12月4日	評価結果市町村受理日	平成26年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成26年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の個々の状態に応じて一人ひとりが生き生きと生活できる楽しみのある場ということに支援に努めている。施設内での生活にとどまらず出来る限り、ドライブや時にミュージカル鑑賞などの外出支援も積極的にを行い四季を感じて頂けるよう心がけている。定期的な運営推進会議の開催の他、事業所や法人の行事にも委員の皆様やご近所の方、ご家族様をお誘いして開かれた運営と共に行政・地域包括支援センターとの連携も図り、必要時適切な助言等も頂ける体制も構築されており、皆様と協働して入居者様を支援して行く取り組みをしている。また入居者同士、ご家族同士の繋がりが大切なものと考え、支援を促している。職員は佐久市在宅医療連携拠点事業の交流研修や佐久圏域グループホーム連絡会の相互訪問研修にも参加し情報交換や勉強会などを通じ連携が図れる様努めている。また、法人内外での学習会等にも積極的に参加している。介護福祉士やヘルパー2級の実習生、中学生の福祉体験・ボランティア等の受け入れも積極的に行っており外部との繋がりも増え、グループホームについての理解を深めて頂いている。常に入居者様のご状態に目を向け「それぞれの方が最も安心できるような場所」で生活が送れ、その方に必要なサービスが適切に受けられるよう母体施設や専門医や各種専門職との連携を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北方に雄大な浅間山を臨み、リンゴ畑や水田が広がるのどかな風景の中に、コの字型をしたグループホームがある。地域の皆様の中で「やすらぎのある生活の場」をめざすという理念のもとに、職員の一人ひとりが、入居者一人ひとりと向かい合い安らぎのある場を提供している。母体施設の老健をはじめ訪問看護など、同列の協力医療機関ときめこまかな連携がとりやすい仕組みがある。運営推進会議に入居者の家族全員がメンバーになっており、グループホームの実情を理解し、職員との信頼関係もできている。入居者の笑顔が多く見られた中に、やすらぎを感じることができた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

作成日：平成 26 年 3 月 13 日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>入居者にとって「やすらぎのある生活の場」という認識を共有し、尚、入居者お一人ごとのやすらぎある生活を実践できる様努めている。「地域の皆様の為に」という点では運営推進会議を足がかりに徐々に繋がりもでき、また発信もしている。</p>	<p>理念は施設内の見えるところに掲示されている。職員は理念実践のために、入居者一人ひとりとしっかり向かい合い、個人に適したサービスを提供するよう努力している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的な交流としては入居者との散歩途中のご挨拶や事業所主催の夏祭りなどにご参加いただき交流を深めている。ご近所の方より四季の野菜や果物を頂くことも多い。入居者と一緒に手作りのおはぎなどをお返ししたりと繋がりを継続できるよう努めている。</p>	<p>自治会に加入しているが入居者も加齢とともに重症化の傾向にある。地域の活動にも参加できにくくなっている。また地域も高齢化が進行しつつある。</p>	<p>地域の方々の高齢化に伴い、交流が難しくなりつつあるので、交流の範囲の広がりも検討を期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業部の公開講座で認知症の勉強会を開催している。運営推進会議やご家族様を通して地域の人々に認知症の理解を深めていただくよう努めている。</p>	/	/
4		<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>サービスの提供内容や入居者の状況及び活動の様子をつまびらかに報告することで、ご家族・地域の皆様・行政の方とのそれぞれの見識のなかで直接的な討議が持てサービスの質の向上に活かそうという意識付けが出来ている。</p>	<p>今年から運営推進会議を年6回開催することを予定し、すでに1月まで実施した。今年度から家族全員に運営推進会議に出席していただき忌憚のない意見がだされている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>入退居、事故報告や地震・災害時についての情報の提供に加えて運営推進会議において事業所の取り組みや実情を報告している。</p>	<p>市町村担当者とは日ごろからことあるごとに連絡をとりあう。運営推進会議に出席していただき、事業所の取り組みや実情を報告している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催による学習会に全職員が参加しており、身体拘束について学ぶ機会作りも行っている。身体拘束は行っていない。緊急、やむをえない場合以外、玄関の施錠はしていない。	年1回法人主催の勉強会は全職員出席を原則とし、出席できない場合は研修資料を本人に渡し個人学習をしてもらい、レポートで確認している。身体拘束の理解を徹底させている。玄関の施錠は夜9時から朝5時までとし、入居時に家族に説明をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会に参加するよう心がけ、参加もしている。虐待防止についての意識はあり、職員間でも確認し合っている。また、外部からの受け入れも日常的に行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会に参加するよう心がけ、また参加もしているが更に勉強する必要がある。支援の必要性がある入居者については関係者と話し合ったこともあるが活用にはならなかった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結・解約時には十分な説明を行い、ご家族の想いを引き出すよう努め、受け止めてご理解・納得を得ている。記録にも残している。料金等の改定には文書にて説明もしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度、保険者より派遣される相談員を受け入れ、入居者と自由に懇談する機会を設けている。事業所の行事や年2回の家族会や日常的な面会時に意見や要望を伺うよう、全職員が努めており、運営に反映させている。表出しやすい雰囲気作りにも努めている。	運営推進会議への家族の出席と、年2回の家族会と面会時等あるゆる機会に意見・要望を伺うことに努力している。また、月1回の介護相談員の訪問で、入居者の声を聞いてもらっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の運営会議や年2回の個別面談時等に発言できる機会は設けている。日常的に意見や提案を聞くための言葉掛けをし、タイムリーに反映させている。	月1回の事業所の会議や、年2回の個別面談時には意見を聞く機会がある。また、日常の業務の中でも声掛けをし、意見提案を聞き取る努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の目標面談を通して向上心ややりがいを持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の学習会に参加できるよう機会を設けている。外部研修も必要に応じて受講している。その他研修会等の情報も掲示し個人のニーズに合った研修が受けられるよう機会を働きかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐久圏域内のGH、13箇所と協働して勉強会の開催をしたり相互訪問などの取り組みを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に体験利用をして頂いたり、ご本人と直接お話できる機会を設けている。入居直後は本人を中心に他入居者や職員と関われる機会を重点的に持つよう意識的に取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込を頂いた時点より、ご家族の気持ちを受け止める努力を示している。サービス開始に当たってはご家族の想いを出来る限り受け止めるよう努力している。本人との関わりの中で更に円滑な関係が深まるよう心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と直接的に関わることが可能であれば本人を中心とした視点でGHが適切か、他のサービスが適切かの意見を述べている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの生きて来られた歴史に様々な教えを頂くことが多く、共に暮らす仲間としてその時々々の知恵や工夫を出し合いながら生活し、支え合う関係作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況の変化も受け止めるよう努力し、本人の想いを共有しながらその時々でご家族にできることを確認し、無理なく共に本人を支えてもらえる関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の表出する言動の意味を理解し受容する中で、ご家族と情報を共有しながらご協力頂き、そのような支援に努めている。	入居時には家族や本人に利用している地域とのつながりをお聞きし参考にしている。高齢化重度化に伴い回数も減ってきているが、家族の協力を得ながら本人の希望に沿うように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係が保てるよう協力しあったり、助け合ったり出来る場面を設け、繋がりを意識して支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の経過についてはできる範囲で情報を得るよう心がけている。長年関係を築いてきた家族との縁を大切にしながら必要に応じて相談にもものよう努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いが汲み取れるように日常的に本人の言動の意味を理解するよう努め、表出しやすい関係作りにも心がけている。	日ごろから一人ひとりの表情や言動に心を寄せ理解するようにしている。本人の希望・意向を表せるような関係づくりを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を知り、本人の希望や本人の想いに添った生活支援をする為にも生活歴は重要なものであるので可能な限り今までの経緯を含め把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化する心身の状態の把握は重要であり、それにより有する「力」も変化する日々のささいな言動にも目を配り把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画から作成できるようそれぞれの入居者の様々な変化を見逃さず、ご家族や専門職や必要な関係者と連携し、カンファレンスを行っている。	居室担当者を中心としたスタッフが、日常生活の課題を把握し本人、家族関係者と話し合いながら介護計画につなげている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中や夜間の様子を中心に受診や往診の内容も個別に記録し情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前の体験利用やショートなどを実施し、ニーズに合ったサービス提供に努めている。その時々生ずるニーズについても専門職や医師等に助言をもらいサービスに反映できるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の力が発揮でき暮らしを楽しめるよう努力はしているが、重度化している入居者もあり支援が十分にできない状況にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医や専門医に適切に受診できるよう又、希望の入院機関にて治療が受けられるよう支援している。状況の変化に応じ、必要時、意向の確認を実施している。</p>	<p>入居時にかかりつけ医を説明をしている。現在は、全員が協力医療機関より往診を受ける。必要に応じて専門科の受診もある。受診結果・処方内容・健康診断の予定や結果などは必ず家族に知らせるようにしている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>契約している訪問看護ステーションの看護師と必要に応じて連絡・相談を行い、必要な看護等が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>安心して治療が受けられるよう病院とも情報交換は密に行っている。家族とも連絡を取りながら不安の解消に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて管理者から説明を行っている。記録にも残している。状況の変化に応じて必要な専門職とも連携もしている。運営推進会議で話している。</p>	<p>入居時に家族に向け重度化や終末期に向けた施設の方針を説明している。状況に変化があった場合は、経過を説明し家族と本人の意向に沿えるよう支援している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人の勉強会等に参加し緊急時に備えている。リスクマネジメントについても行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時を想定した避難方法などの訓練を実施している。訓練時以外にも日々意識するようシミュレーションの確認もするようにしている。運営推進委員・近隣の方に避難経路など説明している。</p>	<p>災害時を想定した避難訓練を年2回実施している。職員一人ひとりが対応できるようシミュレーションも行っている。運営推進委員、近所の人、訪問看護からの協力体制もある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居期間が長期になる中で関係性も密になってくると互いに親しい呼称となることもある。単なる敬語にこだわらず利用者が個々に呼ばれて嬉しい呼称であったり、心理状況や個々の価値観に合わせた理解し易い言葉でTPOに配慮しながら対応するよう意識している。	入居者の呼称は家族と本人とスタッフで相談して決めている。一人ひとりの人格を受け止め誇りやプライバシーを損ねない声掛けで対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人にとって話しやすい職員だったり雰囲気といった環境作りに心がけると共に、普段何気なく発する言動からも本人の希望や自己決定をスタッフが汲み取るよう意識している。また、本人に確認できるような機会も設けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の一人ひとりの体調や心理状態に合わせて、起床・就寝・食事・休息の時間を可能な限り優先している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事への参加や外出時の服装、理美容などなるべく本人の好みやその人らしさが保てるよう把握し、ご家族の協力も得ながら支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や野菜の下ごしらえなどを日常的に利用者と一緒にやることに心がけている。そのような中で利用者の嗜好なども聞き取り、食事に反映したりしている。洗い物や片付けは利用者が率先して行ってくれている。	食事の準備は利用者が楽しみながらそれぞれができることを行っている。食事の時も今日の献立について話題にし準備にかかった人への感謝の言葉も聞かれ、穏やかな雰囲気の中で食事ができていた。後片付けも参加していた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、摂取量のチェックを行っている。食事形態や個人の好みにも配慮し栄養のバランスや量の確保にも努めている。必要な方には栄養補助食品や水分ゼリーなどを活用し無理なく摂取できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、一人ひとりの口腔の状態に応じたケアを実施している。義歯の方のポリドントも就寝時に行っている。義歯衛生士によるチェックと指導も受けている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>トイレの場所を明確に表示したり食事やお茶の前にさりげなく声かけをし、自立支援に努めている。利用者一人ひとりの排泄パターンや気持ちも理解することに努め、なるべく本人がトイレでスムーズに排泄できるよう本人のペースに合わせ言葉掛けにも配慮して誘導している。</p>	<p>トイレ排泄を基本とし、個々の状態に応じ表情、仕草などから排泄パターンを把握し先回り支援をしている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の及ぼす影響は十分に理解できている。下剤だけでなく、自然排便が促せるよう摂取量や食品、水分にも意識し一人ひとりの排便のタイミングや環境にも配慮し言葉掛けもそれぞれ工夫している。生活のリズムも必要なことと考え、運動することも心がけている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>一人ひとりの体調や、事情に配慮しながら入浴のタイミングを計っている。毎日ゆっくり入りたい方、一番風呂にこだわる方など可能な限り希望に添えるよう支援しているが職員の都合優先のことも多い。</p>	<p>曜日・時間など固定せず一人ひとりの体調や希望に応じて対応している。高齢化に伴い浴室内には安全に入浴できる介護用品を備えている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>利用者それぞれの方の体調や心理を把握し、また、居室のベッドの位置や布団等の対応も考慮して安心して眠れるよう支援している。居室に施設したい方には施設してもらっている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の目的や副作用(特に向精神薬による転倒などのリスクが高いこと等)については十分に注意し、量の調節も医師にお願いしている。他の薬についても医師の指示や薬の説明書に目を通し効果や作用を理解するよう努めている。症状の変化についても意識し観察している。一人ひとりの嚥下の状態にも配慮し薬の形態もより内服しやすいよう医師と相談している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが自分の力を発揮し満足と喜びを感じてもらえるようなレクリエーションの組み立てに努めたり、日常生活の中で利用者同士が助け合ったりお互いを認め合えるような支援を心がける中で自然とそれぞれの方の役割が生まれて自発的な意欲と張り合いが持てるよう心がけている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって・・という訳にはいかないがドライブ、ベランダでのお茶、散歩など戸外の空気を感じてもらえるよう努めている。日常的に個々の希望については把握しており、出掛けられるときには希望に添えるよう努めている。重度化してきている方も本人の負担や体調を考慮しながらご家族の協力を得てできるだけ希望に添えるように支援している。	食材の買い出しに職員に同行、個人の買い物は希望外出対応をしている。入居者全員でミュージカル、イルミネーションなどの見学や食事会の機会を設けている。重度化に伴い参加できる人が減ってきている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人が自分のお金を持つことの意味とお金その人にとって必要な時期もあることを理解しており、ご家族の協力も得て本人が管理するお財布を持っている方が2名いる。外出したときなど自身の判断でお土産を買うこともある。困ったときは手助けしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その必要な方がいれば電話をかけたたり、また、外部よりかかってきた電話を取り次いだり事務所の電話を利用できるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所の各種刺激も利用者一人ひとりの状態や体調によって感じ方も違いがあることを理解し個々の不快や混乱を招かないよう配慮している。また、活動時間、休息の時間のメリハリにも工夫している。	居間の中央に炬燵があり周囲にソファがある。好きな姿勢で暖をとることができる。CDを聞く人、歌う人、ぞうきんを縫う人、それぞれが好きなことができる空間がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で自分の落ち着ける場所、定位置を意識している方には可能な限りそこで過ごしてもらえるよう配慮している。利用者個々の性格や相性及びADLに応じて家具やテーブルなどの配置換えをしたり、誘導時の配慮をしたり工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のADLに応じ、使い勝手が良いような、その時々に必要なものを工夫したりレイアウトも変えている。本人のなじみのあるものが時に混乱を招く原因になることも経験より理解している。	本人や家族と相談しながら希望や好みに合わせたものが置かれていた。居室内のレイアウトは安全を考慮しながら本人と相談した好みの居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札、トイレの表示を分かりやすく表示したり居間の洗面台には一人ひとりの手拭きを置く場所を表示しタオルを設置する等工夫をしている。		

目標達成計画

作成日：平成 26 年 3 月 13 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	施設の見学や、ご入居の申し込みを受けた時点より、ご家族のお気持ちや現在のご状況等を出来るだけ受け止め理解し、利用者ご本人とご家族にとってよりベストな支援が出来るよう努めているが昨今、ご家族様同士やご本人とご家族の関係が希薄なご状態のケースも増えてきている。ご本人の支援に当たりご家族とのコミュニケーションが難しくなりともすると苦情に発展しそうなケースも出てきている。	利用者ご本人の支援について、ご家族のお気持ちや考えを忌憚なく発信していただけて、また、グループホームからも利用者の認知症の進行に伴う変化やご本人の生活に対する希望(外出や買い物...)などをタイムリーに報告でき受け入れて頂けてより良いケアが提供できる。	遠方にお住まいだったり、仕事等の関係でご多忙な為なかなかご面会にお出でいただけないご家族様もいることから、ご家族様になるべくご負担をお掛けしないでよりスムーズなコミュニケーションが図れ尚、利用者の状況をグループホームの職員と共有して頂けるよう、定期的な文書等による情報の提供を実施する。又、個々のご家族様との一番ベストなコミュニケーションの手段を構築する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					